Topics | 東北

公民連携での交通拠点整備による中心市街地の賑わい創出―東北支部見学会

谷本 真佑　東北支部総務企画委員／岩手大学

1. はじめに

東北支部では，令和4年11月5日（土）に岩手県盛岡市で現場見学会を開催した。本会は，1. 盛岡市およびバスセンター再整備事業の説明　2. 盛岡バスセンターおよび周辺地区の現地視察　3. 意見交換会　の3部構成で実施された。

盛岡バスセンターは盛岡市中心市街地の東部に位置し，1960年の供用開始から50年以上もの間，交通拠点かつ中心市街地の核の一つとして機能した。老朽化により2016年に一度閉鎖されたが，公民連携事業により2022年10月に新たなバスセンターの供用が開始され，中心市街地の核が6年ぶりに復活した。

本会では，盛岡市の前都市整備部長としてバスセンター整備事業などの都市計画に従事された高浜康亘氏（現・国土交通省東北地方整備局建政部都市・住宅整備課長）に総合司会を務めて頂き，バスセンター再整備を始めとする盛岡市のまちづくりについて現地見学を行った。

2. 盛岡市および盛岡バスセンター事業の話題提供

講演1　盛岡市の都市構造・都市戦略

盛岡市都市整備部・小笠原裕光部長より，盛岡市の都市構造や都市戦略についてご説明頂いた。盛岡市の経緯や現況をご紹介頂くとともに，近年の取り組みとしてPark-PFIの活用による川辺の緑地整備や舟の運航など，川を活用したまちづくりについてご紹介頂いた。

講演2　行政からみたバスセンター整備事業

行政の立場からバスセンター整備事業を推進された盛岡市都市整備部・滝村敏道次長より，本事業のご説明を頂いた。初代バスセンターの供用開始から老朽化による閉鎖を経て再整備に至った経緯をご説明頂き，代理人方式（エージェント型）による公民連携事業の効果や，地域とともに事業を進めた取り組みをご紹介頂いた。

講演3　民間事業者からみたバスセンター整備事業

本事業のエージェントとして民間の立場から事業を推進された，株式会社盛岡地域交流センター・戦略事業部の菅原隆彦部長より，本事業のご説明を頂いた。バスセンター周辺地区の小売販売額が減少傾向にある背景や，人だけでなく地域の魅力も繋ぐローカルハブを目指す方針，バスセンター内の商業エリアにおける地元企業の選定などをご紹介頂いた。

3. 現地視察

新しい盛岡バスセンターを視察し，交通エリアと商業エリアをシームレスにすることで相乗的な賑わいを創出する工夫等について現地にてご説明頂いた。見学会は土曜の午後に行われたこともあり，幅広い年齢層の市民で賑わう様子がみられた。また，バスセンターの周辺に位置する岩手銀行赤レンガ館・紺屋町番屋などの歴史的な建造物や，「まちなかウォーカブル推進事業」の一環で歩車共存道路として路上テラス営業が可能となった葺手町こみち等を視察した。

図1　盛岡バスセンター内の商業エリア

4. 意見交換会

現地視察後の意見交換会では，バスセンター整備事業の進め方やセンター内のデザイン，盛岡市の都市・交通政策など様々な内容の意見が交わされた。

公民連携のメリットとして，交通拠点整備（公）と賑わいづくり（民）の一体的な整備による効率的な設計・施工が市の経済的負担の抑制につながること，民間と組むことで発信力が飛躍的に向上すること，市の関与による安心感から地域の人が集まることなどが紹介された。

また，中心市街地の建造物の多くが更新時期を迎える盛岡の都市整備にとって，バスセンター再整備事業が街の更新の突破口となったとの実感や，地元と協力しながら本事業を進めてきた流れを維持しつつ，ローカルハブに繋がる関係者の増加を目指す意気込みも聞かれた。

5. おわりに

本会は，37名のご参加を頂いた。ご講演頂いた皆様，実施に向けてご準備頂いた委員の皆様，ご参加頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。